

慰めの子

シリーズ～福音となったイエス～

2026・5・10

母の日礼拝



イエスに出会った後のサウロ

- ダマスコ門外でイエスに出会い回心する
 - 「『サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか』と呼びかける声を聞いた。」9:4
 - 命を狙われ夜陰に乗じてダマスコを脱出する
- エルサレムで使徒たちと会う
 - 「弟子の仲間に加わろうとしたが、皆は彼を弟子だとは信じないで恐れた。」9:26
- バルナバが取り持った
 - 「しかしバルナバは、サウロを連れて使徒たちのところへ案内し、サウロが旅の途中で主に出会い、主に語りかけられ、ダマスコでイエスの名によって大胆に宣教した次第を説明した。」9:27

イエスに出会った後のサウロ

- ダマスコ門外でイエスに出会い回心する
 - 「『サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか』と呼びかける声を聞いた。」9:4
 - 命を狙われ夜陰にバルナバはサウロを導く
- エルサレムで使徒バルナバに恐れず、彼の話をしっかり聞いてやった弟子だとは信じないで恐れた。9:26
- バルナバが取り持った
 - 「しかしバルナバは、サウロを連れて使徒たちのところへ案内し、サウロが旅の途中で主に出会い、主に語りかけられ、ダマスコでイエスの名によって大胆に宣教した次第を説明した。」9:27

故郷タルソスへ帰ったサウロ

•エルサレムでも命を狙われる

- 「サウロはエルサレムで使徒たちと自由に行き来し、主の名によって恐れずに教えるようになった。また、ギリシア語を話すユダヤ人と語り、議論もしたが、**彼らはサウロを殺そうとねらっていた。**」7:28,29

•タルソスに避難するサウロ

- 「それを知った兄弟たちは、サウロを連れてカイサリアに下り、そこからタルソスへ出発させた。」30

•サウロの最初の受難

- サウロの熱心な宣教は反対派の怒りを買い、回心後まもなく2度も命を狙われた

バルナバについて

- 「慰めの子」と呼ばれていた
 - 「レビ族の人で、使徒たちからバルナバ—『慰めの子』という意味—と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。」4:36-37
 - 「バル」=子、「ナバス」=慰め・励まし
- 外国出身のレビ族であった
 - レビ族は神殿で仕える特別な部族だった
 - マルコの親戚で「70人の弟子」だった説も
- 畑を売って教会に献げた

サウロを連れ戻しに行った

• アンティオキア教会の誕生

- ローマ帝国第三の年であったアンティオキア
- 異邦人にも福音が伝えられ教会が誕生した
- 彼らの信仰を確かめるためにバルナバが派遣された(11:22)

• バルナバ、サウロを探しに行く

- 「それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。」
- 近くまで来たこともあるが、ずっと気にかけていた
- もしここでバルナバが行かなかったら、世界宣教は
ずいぶん遅れたのではないか

最初の宣教旅行

- バルナバとサウロ、アンティオキアで教える
 - 「二人は、丸一年の間そこの教会と一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めて**キリスト者**と呼ばれるようになったのである。」
- 聖霊が二人を遣わすよう命じる
 - 「彼らが主を礼拝し、断食していると、**聖霊**が告げた。『さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出しなさい。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。』そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。」13:2,3

2度目の宣教旅行を前に

- パウロ、2度目の宣教旅行を提案する

- 「数日の後、パウロはバルナバに言った。『さあ、前に主の言葉を宣べ伝えたすべての町へもう一度行って兄弟たちを訪問し、どのようにしているかを見て来ようではないか。』」15:36

- パウロはマルコを連れて行きたくなかった

- 「バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネも連れて行きたいと思った。しかしパウロは、前にパンフィリア州で自分たちから離れ、宣教と一緒に行かなかったような者は、連れて行くべきでないと考えた。」37

バルナバとパウロの衝突

- マルコを連れて行くかで衝突した二人
 - 「そこで、意見が激しく衝突し」15:39
 - 「慰めの子」であるバルナバが感情的になった！
- 反目して別行動をとることに
 - 「彼らはずいに別行動をとるようになって、バルナバはマルコを連れてキプロス島へ向かって船出したが、一方、パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて、出発した。」40

その後の二人

- パウロはバルナバを同労者として
 - 「あるいは、**わたしとバルナバ**だけには、生活の資を得るための仕事をしなくてもよいという権利がないのですか。」コリント一9:6
- マルコを晩年頼りにしたパウロ
 - 「ルカだけがわたしのところにいます。**マルコを連れて来てください。彼はわたしの務めをよく助けてくれるからです。」**テモテ二4:11

母のように温かく熱いソバルナバ

• 寄り添うバルナバ

- エルサレムの弟子たちが恐れたパウロから話を聞き、まるで彼の「身元保証人」のように紹介した

• 気にかけるバルナバ

- タルソスに帰ったパウロのことを気にかけていた

• おせっかいなバルナバ

- わざわざタルソスに生き、パウロを連れ帰った

• 育てるバルナバ

- パウロと衝突してまでマルコを宣教の現場に留めた